

本日は皆様ご多忙のおり、本校 PTA 副会長 伊東吾朗様、清水区副区長高木強様はじめ、学園の内外から多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に中等部第68回卒業証書授与式を挙行できますこと、高い席からではございますが、心から御礼申し上げます。

中等部 120 名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

中学生は心身とも一番変化の激しい時期と言われています。それゆえ、保護者の方々はお子様の変化に困惑されたこともあったのではないのでしょうか。親の姿が見えないと探しまわり、親の後を追って泣いていた我が子が、中学生になった途端、親の忠告や意見を面倒くさがり、時には反抗されて胸を痛めたこともあったでしょう。

しかし、そうやって私たち大人も成長してきたのであり、思春期に様々なことにぶつかるからこそ、人の悲しみや人を思いやる気持ちが育つのだと思うのです。思春期にこそ喜怒哀楽は必要であると私は思います。

皆さん青春という字を思い浮かべてください。

「青春という字を書いて 横線の多いことのみ なぜか気になる」

「青春という字を書いて 横線の多いことのみ なぜか気になる」

これは 1987 年に発表された俵万智さんの「サラダ記念日」という歌集の中の一首です。「青春」という字は本当に横線が多い。前に進もうとすると様々な壁が立ちはだかっているように思えます。

勉強面での悩み、思うようにいかない部活動、友人関係、先輩との人間関係。そして時には家族との対立や葛藤。自分の進むべき道や目標を見いだせないことへの焦り、不安。好きな人への思いが届かず眠れぬ夜を過ごした人もいたでしょう。これら思春期特有の悩みが皆さんの日常の中に多くあったのだと思います。

しかし、人生には平坦な道などありません。必ず、皆さんのゆく手には大小の差こそあれ、困難や試練、苦しいことが待っていたはずであり、今後も待っているのです。

それらを、皆さんは家族、先生、あるいはクラスの仲間と一緒に一つずつ乗り越えてきたのです。苦難があったからこそ成長したのであり、家族や仲間の大切さを学ぶことができたのだと思うのです。

その事実にどうか自信を持って日々を歩んでほしいと願います。

「青春という字を書いて 横線の多いことのみ なぜか気になる」
皆さんの青春はまだまだ続くのです。

皆さんはこの4月からそれぞれの道を歩みだすこととなります。
人は未知のものに対して恐れを抱きますが同時に希望も抱くもの

です。高校生活に対する期待は大きいでしょう。静岡翔洋で学んだことを糧にして新たな高校生活を切り開いて行って欲しいと思います。

とりわけ、大多数の生徒が進む静岡翔洋高校ですが、この4月からはなんと432名の入学者を数え11クラスのスタートとなります。近年にない多くの入学者です。たくさんの方の公立中学の生徒と競っていかねばならない皆さんですが、恐れることはありません。現在も皆さんの先輩は静岡翔洋高校で中心となって活動しています。

今年医学部へ進む4名のうち2名は中等部出身者であり、彼らは部活動も3年間続けました。全国大会に出た放送部、美術部、写真部で中心となって活動しているのは、皆さんの先輩です。もちろん、運動部においても世界大会に出たチアリーダー部をけん引したのは中等部出身者でした。柔道や剣道、サッカーや野球部でも中心となって活躍しています。

私の願いは今後とも中等部の卒業生がリーダーとなって静岡翔洋高校を引っ張って行って欲しいということであり、他校へ進む生徒にも同様のことを望みます。翔洋中等部の卒業生であることに誇りを持って活躍をしてください。

最後に、皆さんは伝統ある静岡翔洋高等学校中等部の卒業生です。3年間同じ空間で過ごし、学び、泣き、笑い、汗を流した仲間です。もう二度とこの時間は戻ってきません。けれども、どんなに時が過ぎ去っても、またみんなの顔を見れば、一瞬にして昔の自分たちに戻ることができて、勇気づけられたり、元気が出たりする。それが同窓生であり、クラスの仲間なのです。仲間、友はまさに宝物です。

みんなに会えず寂しいときは卒業アルバムを開いてください。思い出が君たちを包み込み、そこにある友の笑顔にきっと救われるはずです。

静岡翔洋からは永遠の姿をとどめる美しい富士が見えます。大切な中学生活、多感な青春時代を送った思い出深い校舎です。どうか、翔洋生らしく雄々しく、自らの抱く希望に向かって歩みを進めてください。希望こそ生きる原動力です。

素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、「告辞」といたします。卒業おめでとう。